

平成24年度における施策評価

施策評価調書

政策コード	4	政策名	いのちと健康を守る安全・安心な社会づくり			
施策コード	1	施策名	生活習慣病予防の推進			
幹事部局コード	4	幹事部局名	健康福祉部	担当	健康推進課	
評価者・実施日	1次評価（健康福祉部長）		平成24年7月31日	2次評価（企画振興部長）		平成24年8月31日

1 施策の方向性（必要性と目的）

本県におけるがんによる死亡率は全国ワースト1位であり、これに脳血管疾患、心疾患を加えた三大生活習慣病による死亡者が、全体の6割近くにのぼっている。また、平成20年の生活習慣病（がん、脳血管疾患、心疾患及び糖尿病）による人口10万人当たりの年齢調整死亡率は245.6と全国平均（238.8）を上回っており、原因の一つであるメタボリックシンドロームを含め、生涯を通じた予防対策を推進していく必要がある。

2 施策の状況

(1) 施策目標及びその達成状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H22	H23	H24	H25	備考
		年度						
①	中高年者(40歳～75歳未満)のメタボリックシンドローム該当者及び予備群の数	約20万	目標値	—	—	—	約18万	最終目標のみ設定
		H18	実績値	—	—			
			達成率	—	—			
達成度				E	E			

達成度 A:「全て達成」 B:「半分以上達成」 C:「達成が半分未満」 D:「全て未達成」 E:「その他」

(2) 施策の推進状況

①生涯を通じた生活習慣病予防対策の推進

■取組内容

○糖尿病の予防意識の向上、減塩、バランスのとれた食生活、運動習慣の定着、歯科疾患の予防、喫煙対策など、県民のより良い生活習慣の確立のための啓発活動を行った。

○特定健康診査・保健指導の実施率向上を図るため、制度の理解や受診意識向上のための啓発活動を行ったほか、特定保健指導従事者の資質向上を目的とした研修会を開催した。

■取組の成果

○働き盛りの男性を主な対象として、栄養士によるバランスのとれた食生活に関する啓発活動を延べ2,753人に実施した。また、高校生に対する生活習慣病予防の健康教育を42回1,511人に実施した。

○糖尿病予防フォーラム（食事バイキング・運動等体験型）を秋田県健康増進交流センター「ユフォーレ」で開催し、70名が参加した。

○県民への糖尿病予防に関する情報提供の一環として、糖尿病予防啓発カードを年4回、計24万枚配布した。また、コンビニエンスストアと協働し、高校生レシピコンクール入賞作品の減塩弁当を商品化して、県内で販売した。3週間で16,000個を売り上げる反響があった。

○特定保健指導を効果的に実施するため、特定保健指導従事者のスキルアップを目的とした研修会を開催し、107名の参加を得たほか、地域・職域保健における各機関が連携して特定健診事業をはじめとした保健事業を効果的に推進するための協議会（地域・職域連携推進協議会。県域及び二次医療圏ごと）を開催し、市町村や職域関係者との連携を図った。

■課題と今後の推進方向

○食生活改善を通じた生活習慣病予防について、これまでの減塩・野菜摂取、糖尿病予防対策等に加え、「1日1gの減塩」を新たな目標とし、県民への普及を促進するほか、食品業界や外食産業等との協働による多角的な対策に取り組む。

○特定健康診査の受診率が伸び悩んでいるため、受診率向上につながった成功事例の共有や受診しやすい環境づくりを促進することなどにより、一層の受診率向上に取り組む必要がある。

3 評価

(1) 施策幹事部長による1次評価

評価結果	●施策の推進状況 ○生活習慣病予防対策の強化を図るため、働き盛りを主な対象とする健康教育など、県民や事業所に対する直接的な啓発活動を実施した。また、生活習慣病予防のために「第1回減塩&野菜を食べよう県民大会」を開催し、減塩と野菜摂取について県民の意識高揚を図った。 ○高校生レシピコンクール入賞作品が、減塩弁当としてコンビニエンスストアから販売され、企業との連携が生まれた。 ○特定健康診査の県内各保険者における平成22年度の受診率は、健康保険組合や共済組合では良好であるが、市町村国保（33.0%）や協会けんぽ（31.2%）では伸び悩んでいる状況にある。
やや遅れている	●課題と今後の推進方向 ○1日1gの減塩や野菜摂取をキーワードとする食生活改善に関する県民運動の継続展開、企業や外食産業との連携による生活習慣病予防を実践しやすい食環境の整備など、今後も、多方面からの生活習慣病予防対策を積極的に推進する必要がある。 ○特定健康診査の受診率向上については、受診者の行動や意識に関する課題のほか、事業主健診のデータが保険者に円滑に提供されていないなどの体制面の課題もあり、着実に課題解決を図っていく必要がある。

(2) 企画振興部長による2次評価

評価結果	●施策の推進状況 各種啓発活動や研修会等を実施したほか、新たに若年層への対策として、高校生を対象とする健康教育やレシピコンクールを開催するなど、着実に取組を進めているものの、特定健康診査の受診率が、特に、市町村国保と協会けんぽにおいて依然として低い状況にあるなど、個々の県民レベルにおける生活習慣病の予防に向けた動機づけは未だ不十分であると思われることから、やや遅れていると評価される。
やや遅れている	●課題と今後の推進方向 生活習慣病の予防意識が薄い県民層をいかにして啓発活動の対象に取り込み、予防に向けた動機づけをしていくかが重要であり、様々な場面・手段を活用すると同時に、1日1g減塩運動のような分かりやすい目標を提示しながら、さらに取組を進める必要がある。 また、特定健康診査の受診率向上のため、ネックとなっている体制面の課題について、解決に向けて関係者の調整を図る必要がある。

4 評価結果の反映状況等（対応方針）

<p>食生活改善を通じた生活習慣病予防について、これまでの減塩・野菜摂取の推進等に加え、「1日1gの減塩」を新たな行動目標とした県民運動を推進するとともに、第二次、第三次産業と連携し、減塩に取り組みやすい環境整備等を図る。</p> <p>また、特定健康診査における体制面での課題については、その解決に向け、地域・職域連携推進協議会などの場を活用して関係機関と調整を図る。</p>

5 政策評価委員会の意見

--